







此書は筆者中川忠英氏は大隈老侯夫人の  
御伯父君に曲亭馬琴と交遊深かつ其佳筆を  
貸與致し居りこと同夫より館長市島春城氏  
に託されし事阿と同氏より聞く

2412



夫木和歌抄後書

春律日録

朔日

山立春

山家早春

小温山子日

二月庚申夜書合

香推浦の竹

後園若菜

家直藤月山家

芥川

御未合

布川百首寫

布川百首寫

大位浦庭

朝至庭客

未指照耀是春衣

地有松水志留

わがうらたりの歌

柳の葉鳴也

耳夜樹

新花文意

山百首寫

山百首寫

山百首寫

山百首寫

山百首寫

山百首寫

氷室

附居

踏寄北の台

無待子日

卯日

ひ月七日種菜のうらた

近江國龜岡若菜

此月此月此月此月

此月此月此月此月

白馬河

唯野野若菜

松上寫

用風屋有鳥

鳥居在宇北

泳柳

唯野野

望春まがや在庭門東

名不之庭

日嫁人開局

草街庭

管理白柳

小倉山春

湖邊梅

湖邊梅

湖邊梅

湖邊梅

元日開寫

祇園社百首立春

鴨神祇

社頭子日

卯日

返事

御玉書

独掃若菜

夏野野若菜

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

竹林寫

遠山朝霞

水竹春

山家春

池翁一皇抄

政位もる

雲の鳥抄

序集八皇后

山邊春

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

元日立春

春氣花枝暖

祇園社百首子日

水邊子日

初卯日

雪中若菜

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

三月十日

















去母は地百首  
泳鳥中

舟中鳥

泳鳥

竹林鳥

三月十一日初雪

大匠師

浮嶋

去鳥初庭

山家慶

朝雪秋意

去鳥未可海門東

山心草

去鳥師庭

雲海より... 舟中鳥... 竹林鳥... 浮嶋... 山家慶... 朝雪秋意... 去鳥未可海門東... 山心草... 去鳥師庭

光花照耀是春衣

名所庭

山庭漸浸井

山家庭

池有は木老用

日暖人前約

池少一重残

去鳥

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草

去鳥草











福柳林屋主人  
名而百首

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

石原亭主人の書  
此の書は石原亭主人の書  
三月三日書

石原亭主人の書  
此の書は石原亭主人の書  
三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

三月三日書

石原亭主人の書  
此の書は石原亭主人の書  
三月三日書

石原亭主人の書  
此の書は石原亭主人の書  
三月三日書







夫木和歌抄後書

夏水目録

四舎更衣

新茶陰涼多

舟路卯花

薄暮卯花

茶

使

騎射馬

蘭中蓬

寄昌蒲泥

名不夏

花柑子

海路那公

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

四月日葵水

水邊卯花

三河國名野平合歌里日

山卯花

卯花鏡象

加茂文

取早苗開那公

雨後早苗

四季百首晚

名河昌蒲

結歌佳言首言

竹内那公

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...











河津郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡

山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡  
山手郡

今ももつた船でりりし舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた  
舟もつた舟もつた舟もつた

照村及晴

田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨

田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨

田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨

田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨  
田家多雨



















































夫木和欽抄後書  
推部一  
題

天雷虹晚夜北民

日雲火朝東巽  
彼岸

星雨煙晝西乾

風偏塵夕南坤

一

一

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*















































































支不和欽抄後書  
雜部三  
題

限嵩洞

路谷私

徭匡嶺

開坂根



同

源因南風老松愁原上秋

日朗臨首首

石上田園荒草并

松上川松上川

久小年毎首首

久保元年毎一首中

日

久小十年毎首首

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

けしき小度乃松風乃... 松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集

松上集



連長年秋合

日 奇合

川よりのあかりの夜... 秋の夜は静か... 月影が水にうつり...

百首奇

松の影が水にうつり... 月影が水にうつり... 秋の夜は静か...

百首奇

松の影が水にうつり... 月影が水にうつり... 秋の夜は静か...

百首奇

松の影が水にうつり... 月影が水にうつり... 秋の夜は静か...

百首奇

松の影が水にうつり... 月影が水にうつり... 秋の夜は静か...

百首奇

松の影が水にうつり... 月影が水にうつり... 秋の夜は静か...

百首奇

松の影が水にうつり... 月影が水にうつり... 秋の夜は静か...

百首奇

松の影が水にうつり... 月影が水にうつり... 秋の夜は静か...







































































よー田の社

うらこの社 松尾

たつこの社 大和又

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社

たつこの社











































かゝるの作やえ申  
あやえ 彦彦  
くさうえ 十伝  
あまの入れ ちん  
すまの入りと ちん  
すまの入れ下能又  
すんえ  
こるれりへ  
るりのえ ちん  
あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦  
あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦

あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦  
あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦  
あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦

池

あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦  
あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦

あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦  
あゝりやえ 彦彦  
りんの入れと ちん  
えんのえ 彦彦  
こまは 彦彦







































































































伴

志之原 通に

あや作 日

三作 松作

あや作 日  
三作 松作

え下月

志之原

あや作

三作

あや作

三作

あや作

三作

あや作

三作

あや作

志之原 通に  
あや作 日  
三作 松作

あや作 日  
三作 松作

え下月  
志之原

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作

あや作  
三作















































人たれに... 鶉の鳴き声... 鶉の鳴き声... 鶉の鳴き声...

此ノ鳥

かたはの... 鶯の鳴き声... 鶯の鳴き声... 鶯の鳴き声...

かたはの... 鶉の鳴き声... 鶉の鳴き声... 鶉の鳴き声...

此ノ鳥











小波寺

四十唐

鷓鴣

鷓鴣

久遠

都鳥

水乞

箱島

佛法僧

龍乳

玉手

熊

世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ...

世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ...

世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ... 世に内より外へ... 世に外より内へ...























和名本草抄後書

Handwritten text in cursive Japanese style, likely a continuation of the botanical notes or a commentary on the adjacent page. The text is dense and covers most of the right page.

夫木和勢抄後書

雜抄十題

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 草   | 行   | 條   | 葛   |
| 芒口  | 日陰草 | 山蓊  | 淺茅  |
| 茅花  | 蘆   | 鞭草  | 蘆   |
| 海松  | 深   | 薦   | 遠   |
| 思草  | 忍冬  | 忍冬  | 百代草 |
| 白菘草 | 介許草 | 木   | 菅   |
| 萱   | 濱木綿 | 小妻  | 藍   |
| 紅   | 紫   | 麻   | 萍   |
| 淺砂  | 葵   | 芥   | 水菘  |
| 母子草 | 駒紫  | 芥子草 | 土芥  |
| 折交草 | 鏡竹  | 菟草  | 射干  |
| 莎草  | 芝   | 山ろこ | 目元草 |
| 夕佳草 | 指竹  | 萍   | 夕夜草 |
| 手白草 | 芭蕉  | 莫烏菜 | 木布  |

Red square stamp or mark on the left edge of the page.



草

あまのついでに草は... 草の性質を記述する...

この草のついでに... 草の生長の様子を記述する...

あまのついでに

いりぬき

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに... 草の性質を記述する...

この草のついでに... 草の生長の様子を記述する...

あまのついでに

いりぬき

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに

あまのついでに







































三月五日

春

梨

梨の花は、春の初めに咲く。花は白く、香りがよい。果は黄色く、甘く、多汁である。梨は、古くから愛用されてきた果物である。梨の木は、庭に植えるには最適な木である。梨の花は、春の訪れを告げる花である。梨の果は、秋の収穫の時期である。梨は、健康に良い果物である。梨は、古くから愛用されてきた果物である。梨の木は、庭に植えるには最適な木である。梨の花は、春の訪れを告げる花である。梨の果は、秋の収穫の時期である。梨は、健康に良い果物である。

春梨

早稲

李

杏

李の花は、春の初めに咲く。花は白く、香りがよい。果は黄色く、甘く、多汁である。李は、古くから愛用されてきた果物である。李の木は、庭に植えるには最適な木である。李の花は、春の訪れを告げる花である。李の果は、秋の収穫の時期である。李は、健康に良い果物である。李は、古くから愛用されてきた果物である。李の木は、庭に植えるには最適な木である。李の花は、春の訪れを告げる花である。李の果は、秋の収穫の時期である。李は、健康に良い果物である。

柏

仲冬

遠く

春

梨

春

柏の葉は、冬の間も緑を維持する。仲冬には、柏の葉は非常に美しい。遠くから、春の訪れを告げる。梨の花は、春の初めに咲く。花は白く、香りがよい。果は黄色く、甘く、多汁である。梨は、古くから愛用されてきた果物である。梨の木は、庭に植えるには最適な木である。梨の花は、春の訪れを告げる花である。梨の果は、秋の収穫の時期である。梨は、健康に良い果物である。梨は、古くから愛用されてきた果物である。梨の木は、庭に植えるには最適な木である。梨の花は、春の訪れを告げる花である。梨の果は、秋の収穫の時期である。梨は、健康に良い果物である。



杉

杉の葉はかきくさくさして、冬は雪が積ると、雪の下に隠れて、冬の間は雪の下で静かに待つ。春になると、雪が溶けると、雪の下から新しい葉が伸びてくる。杉は、冬の間は雪の下で静かに待つ。春になると、雪が溶けると、雪の下から新しい葉が伸びてくる。

備

杉下村

杉

杉

杉

椎

椎の葉は、冬の間は雪の下で静かに待つ。春になると、雪が溶けると、雪の下から新しい葉が伸びてくる。椎は、冬の間は雪の下で静かに待つ。春になると、雪が溶けると、雪の下から新しい葉が伸びてくる。

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山

山











未和抄後書  
雜部十二  
題

國  
故御  
宅  
隣

禁中  
故宮  
廬  
山家

仙家  
閑居  
屋  
田家

都  
窟  
屋形

*[Faint handwritten text in a cursive style, likely a continuation of the text on the left page.]*























郡驛棟墻

夫木和歌抄後書  
雜郡十三  
題

里庭窓籬

村樞戶

市床門











































夫木和欵抄校書

雜部十四

題

汗調 硯 翰 當 笙 鐘 玉 筵 琴 簞

志折

酒 筆 弓 杖 琴 平 鏡 簾 火 取

藥 木 箭 籥 笛 金 枕 柳 梓 頭

文 刀 鷹 蓑 鼓 寶 簞 髻 杖 麻























































大井のまき  
お花とていつと

船

まねま  
すくお

ほろね  
こつ

ひなのさか  
り

あつとつ  
不

かりつと  
ひ

たつとつ  
か

か  
あ

あま  
つ

あま  
つ

あま  
つ

あま  
つ

あま  
つ

あま  
つ

あま  
つ

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと

お花とていつと  
お花とていつと











夫木和歌抄後書

雜部十六

題

神祇自社

釋反

自寺

十六



















常在靈鷲山 一切功德品不之過通處

若坐若經行除障常授心

若坐若經行除障常授心

隨在功德品如說而修行其福不可限

如是展轉教

若後若于國得隨喜

月亦于十劫隨其功德

法師功德品是人持此經

又如淨明志見諸色像

唯能自明了餘人不可見

常不輕品持乃得用是法能往

我保汝寺

而打擲之違違是位

神力品如來一切秘密之藏

於我誠實有在文身妙莊

我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊

於我誠實有在文身妙莊



日入  
陰羅尼品乃玉青 中亦波更志

即從兜率天上 遷于兜率之天 兜率之天 兜率之天 兜率之天

湯息世中 其有受時 是四菩薩 我當

菩提樂 亦從兜率 天上 遷于兜率 之天 兜率之天 兜率之天

日燈心 二版きたれと云々

日 二版きたれと云々

舍利報法 中亦波更志

杖也 一題云白一云は

化縁太ふ五收各別 日月の影まより

真言のく 大日の影まより

五部書 終るを

日 二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々

二版きたれと云々



































王昭君

本行末

春往秋来不记年  
 唯向官明月  
 官官百转愁眉开  
 陵園去  
 上陽人  
 春往秋来不记年  
 唯向官明月  
 官官百转愁眉开  
 陵園去

夫木和秋抄  
 雜部十八  
 題  
 賀  
 公事  
 哀傷  
 言語

大嘗  
 祭  
 夢  
 還儀

元服  
 狩獵  
 德

行幸  
 朝堂  
 台



賀

天曆口門... 賀

七和

元服

大嘗會

元服

行幸

政令

おと

八月十五

公事

Main body of handwritten text in cursive script, covering the majority of the page.









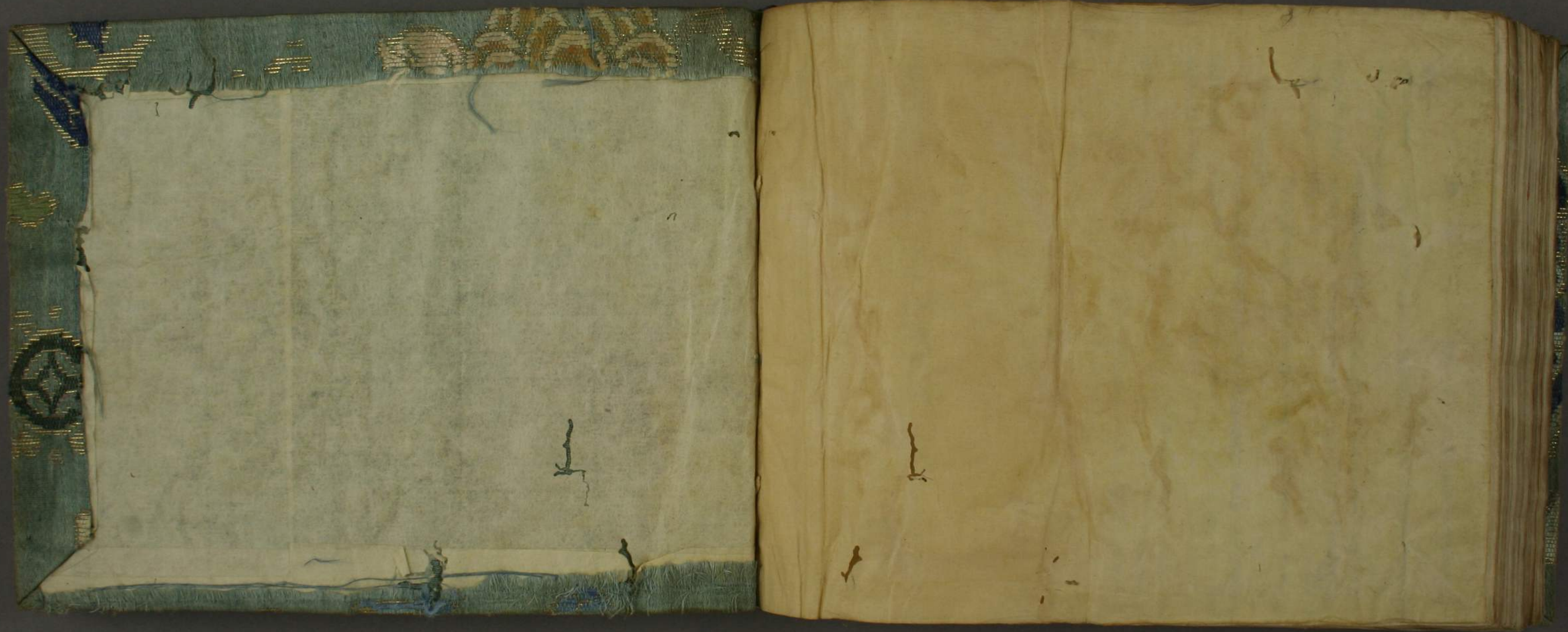














うらむ袴よきしき

巾のよきおのきしき

きしきしきしき

うらむうらむ

しき

今しきしきしき

しき

高のしき

吾神しきしき

角しきしきしき

しきしきしき



